

ナースインホームひまわり

症 例 概 要 利用者氏名：A・K様（70代 女性 要介護4）

利用期間：平成 31年2月～現在

経 過：H30年6月下旬、自宅にてくも膜下出血発症、N病院に搬送され手術施行。
H30年8月下旬、リハビリ目的でS病院に転院され経口訓練開始するが、嘔気、頭痛あり。経口摂取困難との評価に至りH31年1月にN病院でPEG造設となる。

内 容

病院退院後の在宅での生活に不安があり家族の栄養管理や介護が難しいとの理由により、ナースインホームひまわりの登録となる。

利用当初は嘔気や頭痛などの訴えが聞かれてたが、嘔気に関しては下剤の調整を行い排便コントロールをすることで改善されている。

始めはベッド上で過ごす事が多かったが、ご本人の体調を確認しながら徐々に車椅子で過ごす時間が多くなり、夕食の栄養は離床しホールで他の利用者さんと一緒に摂取されるようになり、他の利用者さんが食事を摂取しているのを見て経口摂取したいとの希望が聞かれる。

H31年3月上旬頃からお試して30～50ccの水分にトロミを付けを経口摂取を試みる。

3月下旬に入りおやつ提供も開始。アイスクリームやプリンなどもむせ込みや嘔吐なく摂取できている。以上の結果を踏まえ主治医に相談し、おやつ提供の承諾を得ると共に食事摂取に向けて歯科医による義歯の作成調整を行う。

H31年4月下旬より朝・夕は経管栄養だが昼食時のみ、主食がお粥で副食がやわらか食の食事形態にて提供し経口摂取開始となる。左半身空間無視があり、早食いの傾向が見られるため為見守りにて摂取して頂く。

H31年5月上旬には一度自宅に一泊して家族と過ごされる時間が持てるまでに症状が改善し、久々に自宅へ帰れたことに大変喜ばれていた。

H31年5月下旬より副食の食事形態がやわらか食から普通食にアップし、汁物もトロミ無し状態で3食を経口摂取に変更となるがむせ込みや嘔吐なく摂取できている。

3食しっかりと食べられるようになり体力も付き、離床時間が増えレクリエーションや行事にも積極的に参加するようになった。

今現在、意欲的にリハビリにも取り組み立ち上がりや、歩行器を使った歩行訓練も行っている。

今回は、口から食べられる喜びを感じたことを通じて生活の質の向上に繋がるのだと実感することができた。

今後もご本人のできることを見逃さず、継続的に支援していきたいと思う。